

らびに美容上の観点から腹腔鏡下 SPV は open surgery と比較して優れた術式であると思われる。

十二指腸潰瘍に対する腹腔鏡下 SPV は潰瘍治療の選択手段の一つとして今後存在していくものと考えられる。

46. 穿孔性十二指腸潰瘍症例に対する迷走神経切離兼幽門形成術の有用性についての検討

仙台市医療センター仙台オープン病院外科

土屋 誉, 星 光世, 松本 岳
荒井 浩介, 安西 良一, 高橋 正倫
山崎 匡

迷切兼幽門形成術は穿孔性十二指腸潰瘍手術における標準術式の一つである。その手順は開腹の後、直ちに穿孔部切除のうえ幽門形成術を行い十分な温生食で腹腔洗浄し、poor risk 症例はこの時点で手術を終了し、耐術症例には SPV, TV のいずれかの迷切を付加している。遠隔時におけるアンケート調査では、胃切例と比しほぼ満足すべき結果を得た。迷切兼幽門形成術は幽門形成と迷切の 2 つの part からなる手術で全身状態に応じて幽門形成に definitive surgery としての迷切を付加できる。更に緊急手術における再発はある程度許容されることもあり、本邦における迷切術は穿孔性十二指腸潰瘍手術に最も適した術式であると考えられる。

主題 II：胃切除後の再建術式とその機能評価

47. 胃全摘後の QOL

慶應義塾大学外科

阿部 定範, 大谷 吉秀, 石川 秀樹
五十嵐直喜, 藤田 晃司, 石川洋一郎
一色聡一郎, 横山 剛義, 木全 大
久保田哲朗, 熊井浩一郎, 北島 政樹

1991年より1995年の間に当教室において施行された stage I の胃全摘症例89例を対象とし、再建方法を Roux-en-Y 法 (RY 法) と空腸間置術 (Interposition; IP 法) に分け、術後の QOL をアンケート調査により比較検討した。回答率は70.8%で、両群の背景因子に推計学的に有意差はなかった。体重変化に関する検討では、両群とも術後6か月まで体重減少を示し、以後術後1年目までリバウンドする傾向を示した。IP 群が RY 群よりも術後1年目以降の体重増加で良好であった。

48. 胃全摘術後の長期生存例における再建術式による比較—アンケート調査を中心に—

富山医科薬科大学第2外科

野本 博, 坂本 隆, 井原 祐治
新保 雅宏, 榊原 年宏, 田内 克典
清水 哲朗, 斎藤 光和, 塚田 一博

対象と方法：5年以上長期生存した胃全摘術後の回盲部上行結腸間置法 (以下 IC) 6例と Roux-Y 法 (以下 RY) 11例とを、アンケート調査を中心に比較検討した。

結果：1) アンケート結果：食事量, 食事時間, ダンピング症状, 便秘, 逆流症状, 満足度, 日常生活の質では両群間に有意差を認めず、両術式とも良好な回答が得られた。しかし、やせていると自覚している症例は RY 群に有意に多かった ($p < 0.05$)。2) 臨床検査値の推移：体重, 総蛋白, アルブミン, chE, cho, TG などの値, 推移には両群間に有意差を認めなかった。

結語：長期生存例では臨床的に再建術式による明らかな差は認められなかった。

49. 胃全摘後空腸 pouch 造設再建法における術後長期の機能評価

関西医科大学第2外科

明平 圭司, 中根 恭司, 井上健太郎
佐藤 睦哉, 飯山 仁, 榊屋 義郎
奥村俊一郎, 岡村 成雄, 日置紘士郎

胃全摘後の再建腸管 (代用胃) を再建術式別に 4 群に分け、機能評価に RI 胃排出試験を用い、各再建術における代用胃排出パターンと術後愁訴, 食事摂取量, 体重などとの関連性および術後長期の合併症について検討した。胃排出パターンは、1. rapid type 2. intermediate type 3. delayed type に分けられ、intermediate type に最も良好な結果を得た。また術後長期経過中に pouch からの排出障害を来した症例は、pouch-RY 法の 3 例であった。原因として輸出脚の屈曲やねじれ, さらに pouch の内容物の慢性的なうっ滞などによる pouch の運動機能障害などが考えられた。

50. 胃癌全摘術後の J-pouch 再建法

東京医科歯科大学第1外科

斎藤 直也, 佐伯伊知郎, 林 政澤
谷 雅夫, 本田 徹, 竹下 公矢

胃癌全摘術後の再建法として J (jejunal)-pouch の間置法 (A 法：足側屈曲 6 例, B 法：頭側屈曲 3 例), Roux-Y 再建法 (12 例) を施行し、術後 6 カ月以降の体重, 食事摂取, 愁訴 (ダンピング症状, 腹部膨満感), 不透過マーカー, 造影剤による機能検査につき比較検討した。

J-pouch 間置法の A 法は同時期に施行した通常の